



< 国内 法定・届け出伝染病 発生状況：蜜蜂（H26年次） >

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | H26年次合計 |
|---------|-----|----|----|----|----|----|----|------|-----|-----|-----|-----|---------|
| 腐蛆病 | 0戸 | 0 | 1 | 5 | 5 | 4 | 6 | 4 | 25 | 5 | 2 | 0 | 57 |
| | 0蜂群 | 0 | 1 | 10 | 15 | 6 | 18 | 5 | 95 | 13 | 5 | 0 | 168 |
| バロア病 | 0戸 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 41 | 6 | 4 | 2 | 0 | 54 |
| | 0蜂群 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2098 | 315 | 4 | 9 | 0 | 2427 |
| チョコレート病 | 1戸 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 58 | 5 | 0 | 0 | 0 | 66 |
| | 1蜂群 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 684 | 141 | 0 | 0 | 0 | 828 |
| アカリシダニ症 | 5戸 | 5 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 18 |
| | 6蜂群 | 5 | 4 | 1 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 24 |
| ノゼマ病 | 0戸 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 0蜂群 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

広報家畜衛生



No.311 平成28年3月10日

徳島県家畜防疫衛生センター
西部家畜保健衛生所 吉野川庁舎

徳島県吉野川市鴨島町麻植塚
TEL. 0883-24-2029 FAX. 0883-24-1397
西部家畜保健衛生所 東みよし庁舎
三好郡東みよし町中庄
TEL. 0883-82-2397 FAX. 0883-82-4843

家畜保健衛生所ホームページ URL
http://www.pref.tokushima.jp/docs/2014_022000090/

みつばちの飼育にあたって

蜜蜂には家畜伝染病予防法により定められている伝染病があります。

家畜伝染病（法定伝染病）と届出伝染病に大別され、これらの病気が発症した場合には、最寄りの家畜保健衛生所まで報告する必要があります。

蜜蜂が病気に感染すると、飼育蜂群に大きな被害が生じるだけでなく、他の蜂群にも感染を拡げ、他の飼育者にも被害を与えてしまう可能性があります。

病気の発生を予防するためには、日頃から衛生的な飼育管理を行い、蜂群を健康に保つことに心掛けてください。

消毒に関しては消毒薬の残留に十分注意して使用して下さい。

なお、日頃から飼育蜂群の観察を徹底し、蜜蜂が伝染病に感染した疑いがある場合は、速やかに当所まで御連絡ください。

現在、日本で承認されているミツバチ用の医薬品には、アメリカ腐蛆病用予防薬の「みつばち用アピテン（ミロサマイシン）」、バロア病用の「日農アピスタン（フルバリネート）」と「アピバル（アミトラス）」の3種類があります。

ミツバチ用医薬品使用上の注意

特にハチミツやローヤルゼリー等への残留を防ぐため、用法や用量を必ず守るようにするとともに、使用記録の帳簿を付けて下さい。

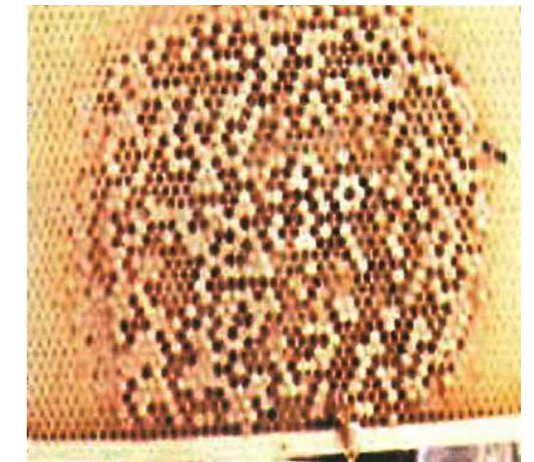
◆帳簿の記載項目一覧

- ① 医薬品を使用した年月日
- ② 医薬品を使用した場所
- ③ 医薬品の名称
- ④ 対象群の数や管理番号
- ⑤ 医薬品の用法及び用量
- ⑥ 食用のために出荷することができる年月日

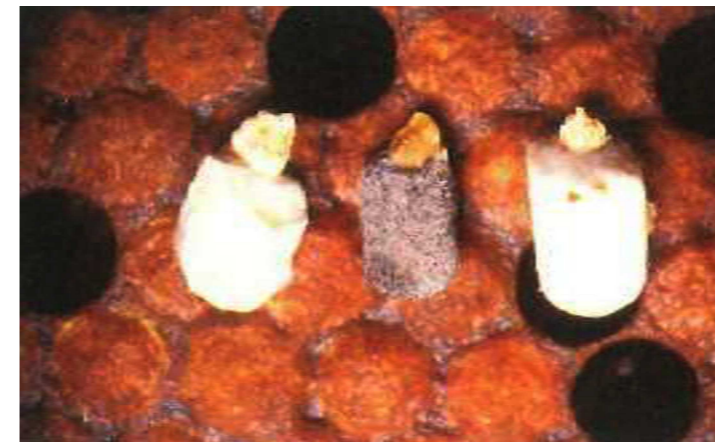
| | |
|---------------|--|
| <p>法定伝染病</p> | <p>アメリカ腐蛆病（原因：細菌） 感染した蜂児は巣房の蓋が陥没したり小孔が見られたりするものが特徴です。また、強い膠臭がある。腐蛆（茶褐色、黒色）がみられ、これにマッチの軸などを刺して引き抜くと糸を引くのが確認できます。時間が経過した場合乾燥した死体が巣房の下壁にこびりつくことがあります。</p> <p>ヨーロッパ腐蛆病（原因：細菌） 無蓋巣房内で、底部や側壁部などにさまざまな状態で横たわる幼虫がみられ、色調は透明ないし汚白色で酸臭や発酵臭が強いのが特徴です。腐蛆は形を崩すことなく取り出せますが水分が多く、つぶせば外皮が容易に破れます。</p> |
| <p>届け出伝染病</p> | <p>チョーク病（原因：ハチノスカビ） 本病に感染した蛹は、巣房内で菌糸に覆われ、最初は白色で、見かけ上チョークのようなミイラ状態を呈します。胞子の形成に伴って、暗緑色から黒色を帯びることもあります。カビに覆われて死んだ蛹は働き蜂によって巣門の外に捨てられ、これが発症の確認になります。通常は時間の経過とともに自然に治癒します。</p> <p>バロア病（原因：ダニの吸血による） 蛹期に受けた吸血により、羽化時に翅の伸長不良を起こし、奇形の翅や肢を持つ働き蜂がみられます。寄生程度が高い場合、蛹期後半から羽化までの間に死亡し、死体が巣門前に捨てられます。症状は時期によっても異なり、初夏まで雄蜂児巣房で増殖したものが、夏、働き蜂の蛹に一斉に寄生するため、強い群ほど顕著な被害が出ることがあります。</p> <p>ノゼマ病（原因：ミツバチノゼマ原虫） 感染した蜂は糞詰まりの状態を呈し、腹部膨満、飛翔不能となり、巣門周辺を徘徊します。また、感染群では下痢による巣箱の異常な汚れがみられます。感染した蜂は寿命が短縮し、かつ感染群では卵の孵化率が低く、群の弱小化の主要な原因となります。</p> <p>アカリダニ症（原因：アカリダニ） 重度に感染した働き蜂の寿命の短縮がみられることもありますが、建勢期や流蜜期には無症状で、また、外観ではダニが認められないので感染に気付くことはまれです。ダニの寄生自体は無害に近いのですが、ウイルスの伝搬者となって蜂群の弱勢化や成蜂の死亡率の増加など多様な症状を招く可能性があります。</p> |



アメリカふそ(腐蛆)病
 有蓋巣房と無蓋巣房が混在
 糸を引く死亡蜂児



ヨーロッパふそ(腐蛆)病
 感染により死亡した蜂児



チョーク病により死亡した蜂児。



バロア病
 ミツバチヘギイタダニに寄生された蜂児(左)及び成虫(右)

